

「国際交流推進委員会」

1. 構成員

1) 委員

委員長：上別府圭子（東京大学）

委員：池田真理（東京女子医科大学）、上野里絵（東京医科大学）、小川純子（淑徳大学）、キタ幸子（東京大学）、グレッグ美鈴（神戸市看護大学）、谷口初美（九州大学）、深堀浩樹（慶應義塾大学）

2) 協力者

なし

2. 趣旨

本委員会の趣旨は、関連する国際組織と連携を取りながら、日本国内の看護系大学のグローバル化を促進・支援することである。具体的な活動目標は以下である。

- 1) 看護高等教育における国際活動・国際交流の積極的な推進
- 2) 第 23 回 EAFONS への Executive Committee Members の参加と連携の促進
- 3) 日本からの国際学会の参加促進に向けた発表・指導の支援

3. 活動経過

1) 今年度の委員会は下記の通り、開催された。

【第 1 回委員会】

- ・日時：2019 年 4 月 25 日（木）10：00～11：00
- ・内容：2018 年度国際交流推進委員会セミナーのふり返り

【第 2 回委員会】

- ・日時：2019 年 6 月 25 日（火）14：00～15：00
- ・内容：2019 年度国際交流推進委員会セミナーの主旨、内容の検討

【第 3 回委員会】

- ・日時：2019 年 7 月 22 日（月）16：00～17：00
- ・内容：2019 年度国際交流推進委員会セミナーの発表者、場所、プログラムの検討

【第 4 回委員会】

- ・日時：2019 年 12 月 13 日（金）11：00～13：00
- ・内容：2019 年度国際交流推進委員会セミナーのプログラム、役割分担や事前準備の確認・協議

【第 5 回委員会】

- ・日時：2020 年 2 月 13 日（木）11：00～13：00
- ・内容：2019 年度国際交流推進委員会セミナーの最終打合せ、グループ分けの確認

2) East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Executive Committee Meeting への参加

2020 年 1 月 10 日～11 日に開催された第 23 回 EAFONS の Executive Committee Meeting に国際交流推進委員会委員長の上別府圭子、委員の池田真理が出席した。学会は 26 か国から 1240 名の参加、700 以上の演題登録があった。

学会プログラムでは、日本から参加したシンポジストとしては、Plenary Session I :Achieving a Doctorate Through Qualitative/Quantitative Research において池田真理（東京女子医科大学）が、Plenary Session III :Achieving a Doctorate Through Mixed Methods/Combined Research にお

いて近藤麻理（関西医科大学）が講演を行った。また、Plenary Discussion: The Student-Supervisor Relationship and Completion Times において上別府圭子（東京大学）が講演した。

また日本からの参加者は計 396 名と最多であり、日本の演題から Oral Presentation Award（28 名）には受賞者はいなかったが、Poster Presentation Award（15 名）では 4 名が受賞した。

3) 看護学教育における国際交流・連携に関する研修会の実施

2020 年 2 月 22 日（土）に「看護学教育における国際交流・連携の実際と課題～いつときの国際交流で終わっていませんか？～」と題した研修会を予定していたが、全国の新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止となった。事前申込者は 53 名であった。企画は、以下のとおりである。

- ・日時：2020 年 2 月 22 日（土）、13：00～16：45
- ・場所：東京医科大学 第一看護学科棟 201 講義室
- ・企画意図：本研修会は、少子超高齢化社会によって日本の大学の在り方が改めて問われる中で、今後、看護系大学のグローバル化に向けて、どのような方向性を目指せばよいのか、具体的にどのようなことに取り組むべきなのかを学び、ディスカッションをすることを目的とする。
- ・内容：本セミナーでは看護学教育における国際交流・連携を活発に行っている 3 大学より、学部・大学院教育、海外留学生への教育における国際交流・連携の実際や課題、工夫点をご発表いただき、グループワークなどを通して、皆で看護系大学のグローバル化に向けた具体的な目標や方策などを導きだす。プログラムの構成は、以下の通りである：

【講演 1】

「学部教育における国際交流～九州大学の事例～」

谷口初美（九州大学）

【講演 2】

「大学院教育における国際交流～慶應義塾大学の事例～」

深堀浩樹、岩田真幸（慶應義塾大学）

【講演 3】

「海外留学生の教育における国際交流～国際医療福祉大学の事例～」

謝海棠（国際医療福祉大学）

【グループディスカッション、各グループの発表と総合討論】

4. 今後の課題

本年度は第 23 回 EAFONS で日本の大学からの発表者の受賞や EAFONS との連携強化など、看護系大学のグローバル化に貢献できたと考えている。今後の課題は、看護系大学の教育・研究における国際連携・協働への発展や活性化であり、研修会を開催するなどの方法を検討する。

5. 資料

